クレア支部

多様性を力に
～静岡県が進めるインターカルチュラルな取り組み～

静岡県企画部多文化共生課

静岡県が ICC に加盟－多文化共生の新たな段階へ

静岡県は、観光業やサービス業で外国人労働者が増える伊豆・東部、留学生の多い中部、南米系の人々が定着している西部と、地域によって外国人住民の背景や課題が異なります。一方で、どの地域でも外国人住民は増加しており、多文化共生施策を全県的に一層推進していくことが求められています。

浜松市に続き、静岡県も 2025 年 8 月にインターカルチュラル・シティ・プログラム（ICC）に加盟し、外国人住民をまちづくりのパートナーと捉え、多様性を地域の力へと変えていくインターカルチュラルな取り組みをスタートしました。

16 年間にわたり、浜松市長として多文化共生を進めてきた鈴木康友知事は、「外国人住民の存在は脅威ではなく、適切に共生を進めれば、地域の課題を解決し、活力をもたらす」との考えを強く持っています。静岡県は ICC 加盟を契機として、海外の先進事例を学びながら、その理念を県全体に広めていく方針です。

多文化共生月間の新設を機運醸成の機会に

2025 年には新たに「静岡県多文化共生月間（12 月）」を設けることとし、その象徴として「静岡県多文化共生シンボルマーク」を公募しました。外国人住民を含む幅広い層から作品を募り、国籍や世代を超えた審査員が「静岡県のめざす未来」を語り合いながら選考を行うなど、審査の過程そのものがインターカルチュラルな実践となりました。また、外国ルーツなど異なる背景を持つ学生たちがプロジェクトチームを組んで月間ポスターを制作し、多様な視点を生かしたデザインが生まれています。

月間の基幹イベントである国際シンポジウムでは、ICC 加盟都市の代表や専門家を招き、講演やセッションを通じて、インターカルチュラルな取り組みの意義やメリットを県民にわかりやすく伝える機会としました。

静岡県多文化共生シンボルマーク（左）と月間ポスター（右）

対話を重ね、誰もが暮らしやすい地域へ

ICC が重視する「インターアクション（対話を通じて理解を深める双方向の関わり）」の実践は、時間と手間を要する取り組みですが、その先には、誰もが尊重され、自分らしく暮らせる地域の姿があります。静岡県は市町と協力し、県民がその意義を実感できるよう取り組みを進めていきたいと考えています。そして、浜松市、静岡県に続き、ICC の理念に共感する自治体の輪が全国に広がっていくことを期待しています。

静岡インターカルチュラルシンポジウム 2025